

* 環境情報学府 環境イノベーションマネジメント専攻

D1 男

働く女性の苦労話と働く女性を支える男性の苦労話がそれぞれの経験を通して聞くことができた。我が家も共働きで先生方の話とだぶるところもあり、とても参考になりました。

* 環境情報学府 情報メディア学専攻

D1 男

昨日の集中講義を受講した感想は有光先生のお話ではここ4半世紀の間に至らないところはまだまだありつつも随分と育児環境、特に意識面での改善がされてきていると感じました。また、保育所等がきちんと機能するのであればより長い産休制度よりも勤務時間短縮の方がありがたいというお話もその通りであると感じました。

金井先生のお話では女性キャリアパスというのは性格差の是正の名のもとに女性を優遇することではないというお話からもこの問題にはある意味で女性以上に男性が積極的にかかわって行くべき必要のある課題であることを認識させられました。

志田先生のお話では、人は自分の持っている特権については鈍感であり、不満については敏感であるためこと女性キャリアパスにおいては男女間のすれ違いの原因になっているというお話も見過ごしがちな点に気づかせていただきました。

* 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻

D1 男

①有光先生

女性大学院生向けの講義ではあるが、私自身、社会人大学生であり、将来的に研究者なるかはともかくとして、現役研究者が研究者になるまでの道のりや苦勞を知る上で有益な授業であった。

実は、前述のとおり、社会人であるため、平日の講義への出席が困難であるため、土曜日開講ということだけで、履修登録に至った次第であるが、女性であるが故の先生のご苦勞が、仕事との両立に苦心する自らの苦勞に重なる部分もあり、図らずも楽しい授業となった。

私は、文系の出身で物理学、ましてや理論物理学の素養はないが、時系列データ解析や、経済物理の部分は興味を感じた。おそらく、相当程度に難解なごとと、講義テーマの趣旨との関係で割愛されたと思われるが、先生ご自身の研究テーマや学位論文について、もっと詳しく聞きたかったと感じた。

女性に限らず、全ての院生にとって、学位取得こそが研究者となるための第一歩であるからです。

②金井先生

かなり難解でした。

ですが、女性の社会進出などを支援する米国のNPO「カタリスト」が、主要な520社を対象に、2007年に実施した調査によれば、女性役員の比率が高い企業群では自己資本利益率（ROE）が、役員比率が低い企業群より約5割高く、売上高利益率は同様に約4割上回るという。

また、コンサルティング会社マッキンゼーの調査によれば、経営陣に3人以上の女性が企業は、「職場環境」や「経営戦略」「調整力」で優位であるという。

とにかく性別や人種にこだわらず、自然に優秀な人材を使うことが競争力を強化するというのが、企業の常識となりつつある今日、パフォーマンスを発揮できる機会を与えることが社会にとっての課題であろう。

③志田先生

社会的選択理論がご専門の先生らしく、専門的視点から社会の現状や女性のキャリアパスについての分析が語られ、興味深く聴講できた。

* 環境情報学府 環境生命学専攻

M1女

今回受講した女性キャリアパスの授業はどれもとても興味深く、1度にこんなにもたくさんの研究者の方からのお話を聞く機会は今までになかったのも参考になった。

特に 2 限の有光先生が話してくださったご自分の研究内容と性研究者として経験されてきたお話がとても興味深かった。

私は今年大学院に入学したが、学部 3 年生の時には進学をするべきか就職をするべきかととても迷った時期があった。迷っていた理由をしては女性として社会に出る時期が周りと比べて遅れるということは結婚をする時期も子どもを産む時期も遅れることへの漠然とした不安や例え、大学院に進学し希望通り研究開発職に就けたとしてもいつか結婚を子どもが生まれたら仕事を辞めなければならない時がくるのではないかと、そうだとしたら大学院に進学する意味が果たしてあるのか、と悩んでいた時期があった。結局、進学することに決め、入学した今進学したことには後悔はないが、女性は男性に比べて社会に出て結婚をしたりすると仕事を辞めるかもしれないという可能性と隣り合わせでいなければいけないような気がしていた。

しかし、有光先生のお話の中で大学院に進学し博士課程に進学を決めていたところでご結婚されたこと、子どもが生まれても研究者として研究を続けていたことのお話を聞き、結婚をして子どもが生まれても“やりたいことを続けていく”ことを諦める必要はないのだなと感じてこれからの将来に対しての不安を感じていた部分が少し解消された。

ただ、お話のなかで女性研究者が結婚し仕事を続けていく場合、単身赴任になることが多く先生自身も 26 年間そうだったということを知り社会が夫婦で研究者である家庭にもっと柔軟な対応というか、理解のあるものになればいいと感じた。

男女共同参画の社会へといっていくら国が理系女性の研究者を増やそうとしても現実として夫婦で研究者の場合どちらかが単身赴任になるケースが多いということは、結婚をしたら単身赴任になるか夫婦のどちらかが仕事を辞めていくかという選択が待っているということであり、仕事を辞めるということを選択した場合にはほとんどの場合で女性が仕事を辞めることになるだろう。こういった現実が理系に進む女性は多くても研究者としての女性が少ない原因ではないかと思われた。国が推進しているプロジェクトに社会がもっともっと賛同してくれればこれからの社会で仕事をしていく私たちにとって不安のない社会になるだろうと感じ、そうなってほしいと思った。

* 環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻

D2 女

女性キャリアパスの講義を今年度も受講できて、光栄である。様々な先輩方の講義を聴くことで、私自身のキャリアについても深く考える良い機会といえる。

ここ数年、男女平等という言葉が世の中でも聞かれるようになった。大学でも男女共同参画が積極的に行われていることから、女性が積極的に働き、活動し、キャリアを積む時代になっている。

女性のキャリアを壁となっていたのが、やはり、男女の壁であろう。働く女性という視点で考えてみたい。働く意志が女性にあっても、働く環境が整っていないのが多くの女性たちがキャリアをあきらめざるを得ない要因の一つといえる。多くの女性たちに働く意志があるからこそ、女性キャリア支援は重要である。

キャリア支援を考えるうえで、ジェンダーは大切である。世の中、まだまだジェンダー意識が薄い。一般の人々が意識を持って、行動すれば、少しでも女性の立場は変わるのではないか。

キャリアとジェンダーについては、もう少し早い段階から教育現場で実践することが大切ではないか。キャリア教育とともに、ジェンダー教育をすすめていくことも重要なことといえる。

女性には負け組と勝ち組にわかれる。キャリアは女性にとって何なのか。キャリアというテーマは、女性の人生を左右しかねない。

正しい選択などない。人生にとって、自分が決める人生に悔いなく生きたい。多くの女性はそう望んでいるのではないか。私もそう願っている。

女性だから、とか、女性なのに、と、女性の人生を否定するのではなく、女性にしかできない生き方をプラスに考え、女性にとってのライフプランを世の中で考えていくべきであろう。

第1回の講義を聴き、深く考えさせられた。

* 環境情報学府 環境生命学専攻

D1 女

自分が中学生のとき、電気の話は女には分からんと思うが、と前置きをして

から授業を始められた先生がいました。高校生するとき、物理の試験で良い点を取ったら、女がそんなにできるはずはない、カンニングをしたに違いないとおっしゃった先生がいました。女は大学へ行く必要はない、と父親は最後まで反対をしました。今から30年以上前の話ですが、何かにつけて大人から「女だから」と言われ不当な扱いを受けることが不思議でした。女に生まれただけなのに人間として何が違うというのだろうかと思っていた頃のことを、今回の講義を受けながら思いだしていました。自分が大人になったときにはこんな差別はなくしたいと思ったものです。

学びたい、進学したい、働きたいと思う女性が性差によって選択を制限されるようなことはあってはならないことです。しかし、どんなに意識改革が行われても、現実問題として女性だけが妊娠と出産をするわけです。だから多くの女性は、出産による中断で自分の築き上げた道から外されてしまうのではないかと不安を抱き、子育てを諦めてしまうケースもあるでしょう。ぜひ、女性にとって出産がリスクではなく、メリットになるような社会的価値観が育まれてほしいものです。女性が、子供を産んでよかった、自己のキャリアにも繋がったと感じられることが、安心して母として生きながら職業を続けられ、キャリアを生かして社会貢献ができると思います。そして、生まれた子供は社会の資産として、社会全体で子育てをしていく国家となっていくことが必要と考えています。

心配なことがあります。「女性にも性差なく」を逆手にとって、社会が女性に対して男性と同じことを要求しはしないかということです。女性がキャリアを積んで自ら望む職業に就き、社会貢献していく機会は性差を受けず、しかし、生物学的な性の違いは受け入れていくことが大切です。

これから社会進出をしていく女性たちが自分の持つ能力を生かせるような社会造りに、私も自分の職業を通して、何らかの貢献をしたいと考えています。この1年、女性キャリアパスについて、自ら問い、自分の役割を模索しながら、今後の講義を受けていこうと思います。

*環境情報学府 環境生命学専攻

M1 女

女性キャリアパス最初の授業という事もあり、どんな講義なのか、規模はどれくらいか、情報の少ないまま講義を受けたのですが、様々な分野の先生方のお話を、自分の立場や考えを交えながら話していただけたのでとても面白く感

じました。特にジェンダーについて講義していただいた金井先生のお話には強く興味が沸きました。また、「ダイバーシティ観念」では私が以前から疑問に抱いていた異なったものへ対する否定についてお話をしていただけました。女性、黒人、ホモセクシャル、クィアスタディズ、障害者などに対する偏見の問題は、人の意識下に定着している問題なため、解決や理解にはまだ遠いと思いますが、だからといって差別を受ける理由にはなり得ないと思います。金井先生のお話を聞いて、改めてダイバーシティとは、多様性を受け入れる事の大切さについて考えさせられる講義でした。今後も、多くの先生方の多方面にまたがるお話を聞いて影響を受けて行きたいと思います。

* 環境情報学府 環境生命学専攻

M1 女

2限の有光先生の講義では、先生のご専門分野のお話に加えて、先生がこれまで歩まれてきた人生について、具体的なお話をお聞きすることができました。女性は特に出産や育児で、仕事の継続が難しくなると思います。自分でコントロールできないことが多々ある中で、職場や家庭、地域施設などで、周囲の理解と協力を得られることはとても重要になってくると思います。将来、自分自身はどんな仕事に就けるかまだわかりませんが、仕事と個人の生活のバランスをとっていけるかどうか、第一歩はまずは自分次第なのだと思います。そのような感覚も視野に入れながら職について考え、今後の自分のキャリアプランを立ててみたいと思いました。

3限の金井先生の講義では、ジェンダーとダイバーシティ、差異と多様性の概念について、いろいろな視点からお話して下さったように思います。また、これまで概念そのものについて考えたことがなかったので、「意味づけがなされることによって言葉や概念が生まれ、それによって現実が現実性をもつ」、ということにも講義の中で初めて気付かされました。公共圏や親密圏、根圏、自己領域などの専門的な用語の部分では、まだ実際の自分の状況・生活と比較して考えられる程にはきちんと理解ができなかったのが残念ですが、先生のおっしゃっていた「異なっていられる社会」というものが、とても印象的でした。

4限の志田先生の講義では、社会的視野から人間の役割について学ばせて頂いたように思います。人間は期待によって形成され、その期待は周囲の局所的な環境に拠るところが大きい。そう考えると、自分の育った環境も親や親戚の女性には主婦が多く、自分も何となくそれが自然の形のように思っていたように思います。しかし、個人が自分の能力を活かすことによって、他者の役に

立ち、それによって職業が保証され、結果として収入などがもたらされることは、とても良い循環を生み出す要素となるように思いました。また、先生ご自身の奥様は単身赴任をされていて、平日は先生がお仕事と子育ての両立をされているとのことで、私にとってはとても新鮮なお話でした。家庭というものが従来の型に縛られず、それぞれの生活に合うような形に多様化してきているように感じました。

工学府 物理情報工学専攻

M1 女

第1回目有光先生の話では、実際に研究者としてのキャリアと家庭を両立している方の話を聞くことができ、とても為になった。かなり大変そうではあるが、それでも実際にやり遂げている人がいるというのは、今後女性としてキャリアを積んでいくことを考えている自分にとって、とても強い励みになった。今回の話では、子供を預ける場所を見つけるのが一番の大きな課題となっており、やはり国も少子化対策をするのなら、保育所の充実を重点的に行うべきであると感じた。志田先生の話はジェンダーとはちょっと違うかもしれないが、日本の伝統だと思っていたことが実は新しい文化であるという事例を聞いて、今までの思い込みが覆されるようでとても面白かった。

環境情報学府 環境生命学専攻

M1 女

教室の狭さや、受講人数の少なさに驚きました。しかし、先生方のこの授業にかける思いが伝わってきて感動しました。また、どのような講義をするのか興味がありましたが、3人の先生方それぞれの専門分野から今までのプライベートを含んだ経歴など盛り沢山の講義であったという間に時間が過ぎていったと感じました。

3人の先生方のお話を伺い、自分は一人の人間としても、一人の学生としてもまだまだ未熟だと実感しました。しかし、この講義に出会えたというチャンスを活かしこれからの自分の人生について考えていきたいと思いました。